

研究課題 (テーマ)		富山県内の高齢者施設に勤務する看護職・介護職の排泄ケア向上のための基礎調査“とやま排泄ケア研究会”設立に向けて	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科	講師	川口寛介
分担者	看護学科	教授	木谷尚美
	看護学科	准教授	伊藤裕佳
研究結果の概要			
<p>【目的】</p> <p>加齢に伴い排尿障害や排便障害の有病率は増加し、排泄は自立や在宅復帰のための重要な要因である。高齢者施設においては運動機能や認知機能の低下に伴い尿・便失禁の排泄トラブルを有している高齢者が多い。加えて、高齢者施設における排泄ケア方法の確立が不十分であることや知識不足が指摘され、ケア実施者である看護・介護職員の排泄ケアに伴う課題、困難感や負担感が報告されている。そのため、富山県内の高齢者施設における看護職および介護職の排尿ケアの実践内容と課題を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【方法】</p> <p>富山県内の高齢者施設(特別養護老人ホーム 118 施設、介護老人保健施設 46 施設、介護医療院 31 施設、グループホーム 186 施設)の看護職・介護職それぞれ 2 名ずつを対象に質問紙調査を実施した。調査項目として、各施設での排尿・排便ケアの実践内容および課題について自由記述法で回答を得た。得られた回答データについて、テキストマイニングを実施し、排尿・排便ケアの実践と課題の特徴を検討した。</p> <p>【結果】</p> <p>311 名から回答を得た。対象者の内訳は看護職 4 割、介護職 6 割であり、50 歳代および 60 歳代以上が多かった。対象者の勤務施設は特別養護老人ホーム、グループホームがそれぞれ 3 割程度と多かった。テキストマイニングの結果、排尿・排便ケアに関する頻出語の特定や共起ネットワーク分析により、実践内容と課題に関する特徴が見出された。また、勤務施設により排泄ケアの特徴が示された。</p> <p>【考察】</p> <p>高齢者施設における排尿・排便ケアの実践と課題の特徴が示された。対象者個々に合わせた排泄ケアが実施されている一方で限られた環境下での実践が負担につながっていたことが示唆された。今後は本研究成果を踏まえた研修会等の実施により看護・介護職員の排泄ケア能力の向上および各施設の状況に応じた排泄ケアの実践ならびに継続していくための支援が必要と考える。</p>			
今後の展開			
<p>本研究の成果については関連学会での発表および学術雑誌への投稿を行う。また、本研究成果に基づき県内の高齢者施設に勤務する看護職・介護職を対象に排泄ケアに関する研修会等を定期的実施し、県内の排泄ケアの向上を図る。</p> <p>今後は県内の病院に勤務する看護職や訪問看護師を対象に同様の調査を実施し、より良い排泄ケアを目指していく。</p>			